

構造関係共通事項

構造関係共通図（配筋標準図）

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ 角 度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径（D）		
		SD295A SD295B、SD345		SD390
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上
135°				
90°				
135° 及び 90° (幅止め筋)				

(注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4 d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- (1) 柱の四隅にある主筋(図2.1の●)で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
(2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の間端(図2.1の●)にある場合(基礎梁を除く)

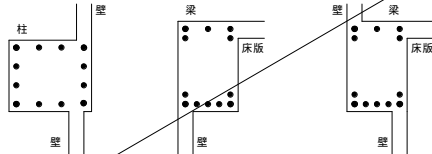


図2.1

- (3) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
(4) 杭基礎の筋
(5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 鉄筋の継手及び定着

(a) 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。
(2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40 dと表3.1の重ね継手長さのうち大きい値とする。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準 強度 Fc (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L ₁₊₁ (フックあり)
	強度		
SD295	18	45 d	35 d
	24	40 d	30 d
	27	35 d	25 d
	30, 33, 36	35 d	25 d
SD345	18	50 d	35 d
	21	45 d	30 d
	24, 27	40 d	30 d
	30, 33, 36	35 d	25 d
SD390	21	50 d	35 d
	24, 27	45 d	35 d
	30, 33, 36	40 d	30 d

(注) 1. L₁、L₁₊₁：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL₁₊₁は、図3.1に示すようにフック部分ℓを含めない。

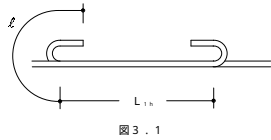


図3.1

- (4) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一面所に設ける場合は、構造図による。

表3.2 隣り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	L ₁₊₁	
		L ₁	L ₂
重ね継手	フックありの場合	a = 0.5 L ₁₊₁	
		a = 0.5 L ₁	
重ね継手	フックなしの場合	a = 0.5 L ₁	
		a = 0.5 L ₁	
圧接継手	-	a = 400mm	
機械式継手	-	a = 400mm以上、かつ、a (b + 40) mm以上	

(5) 基礎梁主筋の継手

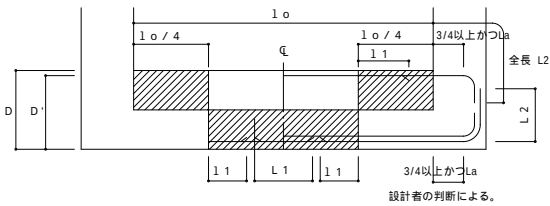
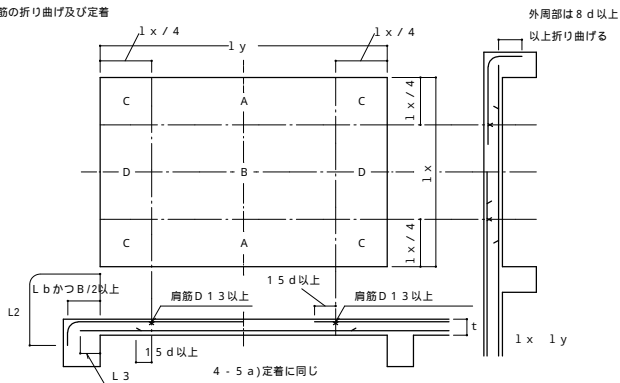


図3.2 地反力(又は杭反力)を受ける場合

(6) 基礎・耐圧スラブの継手位置及び定着

(1) 鉄筋の折り曲げ及び定着

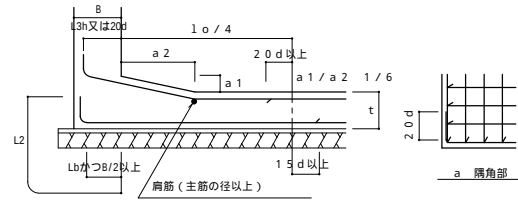


(2) 継手

継手位置は原則として下表によるが、右図でもよい。

下端筋	短辺方向 長辺方向	標準継手位置	
		B	D
上端筋	短辺・長辺方向	A	B
		A	C

(3) ベタ基礎継手及び定着



(b) 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3による。柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは、40 dと表3.3の定着長さのうち大きい値とする。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 Fc (N/mm ²)	フックなし		フックあり	
		L ₁	L ₂	L ₁₊₁	L ₁₊₁₊₁
SD295	18	45 d	40 d	35 d	30 d
	24	40 d	35 d	30 d	25 d
	27	35 d	30 d	25 d	20 d
	30, 33, 36	35 d	30 d	25 d	20 d
SD345	18	50 d	40 d	35 d	30 d
	21	45 d	35 d	30 d	25 d
	24, 27	40 d	35 d	30 d	25 d
	30, 33, 36	35 d	30 d	25 d	20 d
SD390	21	50 d	40 d	35 d	30 d
	24, 27	45 d	40 d	35 d	30 d
	30, 33, 36	40 d	35 d	30 d	25 d

(注) 1. L₁、L₁₊₁：2. 以外のフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ
2. L₁₊₁、L₁₊₁₊₁：割裂破壊のおそれのない箇所へのフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ
3. L₁₊₁₊₁：小梁及びスラブの下端筋のフックなし直線定着長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
4. L₁₊₁₊₁：小梁の下端筋のフックあり直線定着長さ
5. フックあり定着の場合は、図3.2(イ)に示すようにフック部分を含めない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートを使用する場合は、表3.3の値に5 dを加えたものとする。

4 鉄筋のかぶり及び間隔

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ(単位: mm)

構造部分の種類	最小かぶり厚さ	
	土に接しない部分	土に接する部分
スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20
	仕上げなし	30
	柱、梁、耐力壁	仕上げあり
		30
	屋内	仕上げなし
		30
屋外	仕上げあり	30
	仕上げなし	40
擁壁、耐圧スラブ	40	
	柱、梁、スラブ、壁	
	40	
土に接する部分	基礎、擁壁、耐圧スラブ	
	60	
煙突等高温を受ける部分		60

(注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は構造図による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含めない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、構造図による。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

(d) 鉄筋相互のあき(図4.1により、次の値のうち最大のもの)以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、構造図による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 25mm
(3) 隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍

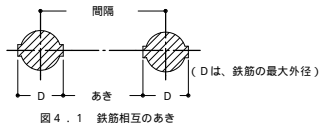


図4.1 鉄筋相互のあき

(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは(d)による。

(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり、厚さは(c)による。

厚和寮ホーム(仮称)新築工事

構造関係共通事項(1)

CHECKED BY.

株式会社 白兔設計事務所

鳥取県知事 登録番号 第05-142
管理建築士(一級建築士登録番号 202791) 新田 浩明

PROJECT.NO	DATE	DRAWING BY.
2026-01	2026.8	一級建築士登録番号 第325874号 澤 享
DRAWING.NO	SCALE	
S-01	-	

木質工事特記仕様書（ １ ）

１．一般事項

（１）適用範囲

本仕様書は建築物および工作物の構造上主要な部分に木材を用いる工事に適用する。

☒ は適用項目を示すものとする。

（２）設計図書

設計図書とは本仕様書、設計図、指示書（現場説明書および質疑回答書を含む）をいう。

（３）標準仕様書

設計図書に記載なきものは「住宅金融公庫監修・木造住宅工事共通仕様書」及び「国土交通大臣官房官庁営繕部監修・木造建築工事共通仕様書」に準ずる。

上記の仕様書に記載なき場合は、公共規格かこれに準ずる規格を適用する。

（４）設計図書の優先順位

設計図書の優先順位は下記による。

- 指示書（現場説明書及び質疑回答書）
- 設計図
- 本仕様書
- 標準仕様書

（５）疑義

疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。

（６）製作要領書及び施工計画書の作成・提出

工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

（７）施工図及びプレカット図の提出

工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

（８）製作工場の選定、承諾

設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける。

（９）各種試験・検査報告書の提出

施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

２．材料の品質

2.1 木質材料

（１）針葉樹の構造用製材、広葉樹の製材、枠組壁工法構造用製材

本項の内容は特記無き限り、針葉樹の構造用製材及び広葉樹の製材及び枠組壁工法構造用製材等の日本農林規格に準ずること。

部 位	品 名	樹 種	区分、等級	含水率	その他
柱・梁	構造用製材	すぎ	目視等級区分 一等	KD20	

- ☒ 記入無き梁桁、母屋、タル木等の曲げ材のうち、見えがかり材は目視等級材の甲種２級、見えない部分の木材は甲種３級とする。その他は乙種２級とする。

☐ 主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。

☒ 乾燥の際背割りを行う。但し見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。

☒ 含水率は平均含水率とし下地材等に用いる場合でも含水率D25以下であることを確認する。

☒ 強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等に注意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように加工する。

☒ 材の曲がりについては、上記にかかわらず目視等級１級相当とする。

（２）構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)

本項の内容は特記無きかぎり構造用集成材及び構造用単板積層材の日本農林規格に準ずること。

部 位	品 名 等 級	樹 種	曲げヤング係数区分 水平せん断性能区分	材 面 品 質	接 着 性 能	ホルムアルデヒド 放 散 量
梁	構造用集成材 特級	欧州赤松	E105-F300	JAS基準	使用現場B	F

（３）構造用合板、構造用パネル

本項の内容は特記無きかぎり構造用合板及び構造用パネルの日本農林規格に準ずること。

部 位	品 名 等 級	強度 等級	曲げ性能基準 合板１級	板面 品質	接 着 耐久性	寸法(mm) 厚（巾×長）	ホルムアルデヒド 放 散 量
耐力壁	構造用合板	2級	-	C - D	特類	1 2 mm	F

・構造用合板はできるだけ大きい寸法のものを用いる。

2.2 ファスナー

ここに示すファスナーや接合金物などは、木質構造の接合部に適用する。ファスナーや接合金物等に錆を生じるおそれのある場合は適切な防錆処理を施す。鋼材の表面処理は特記による。

標準メッキ処理は、溶融亜鉛メッキ：MFZn・C、電気メッキ：EP-Fe/Zn 5/CM2 とする。

（１）くぎ、木ネジ、特殊ネジ

種 類	材 質	適 用 径	使用箇所・頭部／胴部の形状
☒ N釘	○鉄 ・スズメ鋼 ・鉄	N19～N150	
☒ C N釘		CN25～CN150	耐力壁、床板、屋根
☐ B N釘		BN25～BN125	
☐ Z N釘		Z N 4 5 ～ 9 0	
☐ G N釘		GNF25～GNF125	石膏ボード用
☐ S N釘		3.05 mm	シーリングインシュレーション ファイバーボード
☒ 木ネジ	・軟鋼線材		
☐ 特殊ネジ	・スズメ鋼		
☐ コースレッド	・真鍮		

（２）ボルト、ナット

種 類	材 質	適 用 径	表面処理、部品等級など
☒ 呼び径六角ボルト	・SS400	M3～M36	・電気メッキ
☐ 有効径六角ボルト	・SS400	M3～M20	
☒ 全ネジ六角ボルト	・SS400	M3～M36	
☐ ステンレスボルト	・SUS304		
☒ アンカーボルト	・SS400	M12～M24	・溶融亜鉛メッキ

・材質は鋼、ステンレス鋼、非金属。径と長さの組み合わせは「JIS B 1180」参照。

（３）座金

適 用	材 質	適 用 径	形状・表面処理 その他
☒ 座金	・SPCC (JIS G 304)	M6～M24	・角座金・丸座金
☐	・SPHC (JIS G 303)		・電気メッキ

・座金は用途ごと（引張、せん断）に下表により使い分ける。

ボルト径に対する座金の大きさ	8	10	12	16	20	24
	厚さ	4.5	4.5	6	9	13
引張を受けるボルト	角座金の一辺	40	50	60	80	105
	丸座金の直径	45	60	70	90	120
					120	140
せん断を受けるボルト	厚さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6
	角座金の一辺	25	30	35	50	60
	丸座金の直径	30	35	40	60	70
					70	80

（４）ドリフトピン、コーチスクリューボルト、ジベル、シアプレート、木栓

種 類	材 質	適用径・長さ	表面処理、その他
☐ ドリフトピン	・SS400	φ9～φ19	・電気メッキ
☐ コーチスクリューボルト （ラグスクリュー）	・SHRCH10R (JIS S 307)	φ9～φ19	・電気メッキ
☐ スプリットリング	・SS400	φ64、φ102	
☐ シアプレート			・電気メッキ
☐ 木栓	・堅木	M12～M24	

・木栓はナラ・ケヤキ・カシ等で気乾比重0.6以上の広葉樹とし、節や目切れ等の欠点の無い

ものとする。

（５）接合金物、鋼材

種 別	材 質	表面処理	適用、形状、その他
☒ Zマーク			
☐ Cマーク			
☒ 引寄せ金物			
☐ その他の金物			
☐ 鋼材	・SS400	・溶融亜鉛メッキ	・設計図中の特記による
☐ Xマーク			

（６）接着剤（接着接合）

ここでいう接着接合とは、建設現場で用いるものを対象とし、内容は特記による。

３．材料品質の検査方法

現場または加工工場に搬入された製材等は、加工に先立ち下記のとれに受け入れ検査を実施し、監理者に報告する。また監理者の立会いを要する検査については、指定された試験要領に基づいて、適時抜取り検査を実施する。社内検査で試験本数や抜取り率の指定がない場合は原則全数とする。検査の結果、性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行うこと。

（１）針葉樹の構造用製材、広葉樹の製材、枠組壁工法構造用製材

部 材	確認する 仕 様	確認者	材種 等級	外観 検査	寸法 検査	含水率測定		ヤング係数測定		
						表示	全乾重 量法	含水率 計	表示	静 的 試 験
柱	すぎ	社内 監理者	100	100	100	検査後		10		
	1等			○	○	木口記入		○		
梁・桁	すぎ	社内 監理者	100	100	100	検査後		10		
	1等			○	○	木口記入		○		

・監理者側の○は立会い検査が必要であることを示す。

・材種・等級は表示を確認し、外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。

・含水率やヤング係数は刻印された表示の確認を原則とし、全乾重量法や動的曲げ試験は公的試験場にて行う。含水率計は住木センタ・認定品を、曲げヤング係数は全国木材組合連合会の認定品を用いて測定することを原則とする。

・全乾重量法や静的曲げ試験は１荷口につき確認する試験本数を示す。試験体は実際に使用する同一部材の中から抽出し、木材の試験方法（JIS Z 2101）に準ずる。

・動的曲げ試験の判定基準は日本農林規格の針葉樹の構造用製材、合板、パネル、の強度区分材に準ずる。

☒ 含水率測定は、乾燥作業直後に行う。

（２）構造用集成材、構造用単板積層材(LVL)

材 料	確認項目	確認の方法
構造用集成材	部材、断面、長さ、数量 樹種、品名、強度、材面の品質、接着性能、ホルムアルデヒド放散量	☒ 製造工場の認定書等の写し ☐ 日本農林規格(JAS)表示 の確認
構造用LVL	部材、断面、長さ、数量 樹種、曲げヤング係数、水平せん断、接着性能、ホルムアルデヒド放散量	☐ 立会い目視検査
構造用合板	寸法、数量 強度、曲げ性能、板面の品質、接着耐久性、ホルムアルデヒド放散量	
構造用パネル	寸法、数量 強度、ホルムアルデヒド放散量	

（３）ファスナー

ファスナーの種類	確認項目	確認の方法
☒ くぎ	・材質、胴・頭径部、長さ、仕上げ	☒ ミルシートの写し
☒ 木ネジ類	・材質、径、長さ、仕上げ	☐ 表示の確認
☒ ボルト・ナット	・材質、径、長さ、仕上げ	☐ 木栓曲げ試験
☒ 座金	・材質、径、仕上げ	
☐ ドリフトピン	・材質、径、長さ、仕上げ	
☐ コーチスクリューボルト	・材質、径、長さ、仕上げ	
☐ スプリットリング	・材質、径、形状、仕上げ	
☐ シアプレート	・材質、径、形状、仕上げ	
☐ 木栓など	・樹種、曲げ強度、比重	

・設計図書に明記されたファスナーであることを確認すること。同等性能のファスナーを用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得ること。また必要に応じて立会いによる性能確認を実施する。

（４）接合金物

接合金物	確認項目	確認の方法
☒ Zマーク金物	・材質、形状、仕上げ	☒ ミルシートの写し
☐ Cマーク金物	・材質、形状、仕上げ	☐ 表示の確認
☒ 引き寄せ金物	・材質、形状、仕上げ	
☐ Xマーク	・材質、形状、仕上げ、製造所	
☐ 鋼材	・材質、形状、仕上げ、溶接	

・設計図書等に明記された接合金物であることを確認する。同等認定品や性能認定品を用いる場合には、その内容を監理者に申し出、承諾を得る。

４．耐久性（防腐・防蟻・耐候処理）

（１）木材の防腐・防蟻処理

・高耐久材の使用（注：製材の心材あるいは心持ち材又は集成材）

○工場処理材（注：現場の加工、切断、穿孔箇所等は、現場処理に準じる）

JAS保存処理材： K 5 K 4 (K 3) K 2

AQ認証保存処理材： 1種 (2種) 3種

○現場処理（注：給排水用塩化ビニル管に接する部分は、管を保護する）

○塗布 ・ 吹付 ・ 浸漬（処理量 300 ml/m²、－処理回数2回）

日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする

使用部位	高耐久材	工場処理剤	現場処理剤
土台	ヒ のき	ヒK3 □ ()	ヒ 塗布
外周柱下部1m	ヒ 杉	ヒK3 □ ()	ヒ (塗布)
水周り	□ ()	□K3 □ ()	□ ()
その他	□ ()	□K4 □ ()	□ ()

（２）土壌処理

□防蟻薬剤による処理：薬剤（ ）

特記無き場合は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする。

□防蟻薬剤による処理と同等以上の対策（布基礎(防湿コリト））

□土壌処理省略 □北海道 □東北 □北陸

注：処理範囲は、外周部布基礎の内側、内部布基礎の周辺20cm、東石等の周囲20cmを標準とし、処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。

（３）耐候処理（塗装）

□造膜型、 □含浸型、 ・部位（ ）

５．木材の加工

（１）刻み時の注意

製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

（２）加工寸法の精度（下記の値を標準とする）

・構造用製材、枠組み壁工法用構造製材の断面寸法

□ 図面表示が挽き立て寸法の場合： ±1.5mm以下

ヒ 図面表示が仕上がり寸法の場合： +1.5mm、-0mm以下

・構造用製材、枠組み壁工法用構造製材の材長

ヒ 軸組工法の継手仕口の場合： ±1.5mm以下

□ ボルト接合工法の場合： ±5mm以下

・集成材、構造用単板積層材

短辺： ヒ ±1.5mm

長辺： ヒ ±1.5%かつ±5mm以下

材長： ヒ ±5mm以下 □ ()

・ボルト穴径：d+1.5mm（d M12）、d+2.0mm（d M16）（dはボルト径）

・ドリフトピンの穴径：d±0mm（dはボルト径）

（３）表面仕上げ

□製材 化粧材： 野物材： 板材：

（４）面取り

ヒ柱：(2) mm

ヒ梁：(2) mm

６．接合

（１）仕口、継手の原則

・仕口、継手の方法は構造図による。特記無き場合は １．（３）標準仕様書に示された在来工法用の一般的な適用慣例に従う。一般的な適用慣例については、 9．軸組構法接合部標準仕様による。

・採用する方法は監理者の承諾を得る。

・仕口、継手の各部に作用する応力を考慮し、部材の引き抜けが生じないように、原則として羽子板ボルトや木栓など、引張り抵抗をする補強部材を併用する。

（２）釘接合

・釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように端距離、縁距離、釘間隔を大きく取る。釘の長さは材厚の2．5倍以上とする。

・1ヶ所の釘の本数は2本以上とする。

・釘に錆を生じるおそれのある場合は、適切な防錆処理を施す。

・自動釘打ち機を使用する場合は、面材に釘がめり込まないようにする。そのために、釘打ち機の圧力を弱めるか、最後は手打ちを用いるなどの方法による。

・構造用面材を耐力壁とする場合の釘打ち方法は「昭和 5年建設省告示 第 による。

・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

・小口面に打たれた釘は、引き抜き方向に抵抗させることはできない。

（３）木ネジ接合

・構造耐力上主要な部分において、木ネジを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

・小口面にねじ込まれた木ネジは、引抜き方向に抵抗させることはできない。

・木ネジの先孔の径：針葉樹・・・材材 0.8d、側材 0.8d
広葉樹・・・材材 0.8d、側材 1.0d
（先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2／3程度とする。）

・ねじ込みには適切な道具を使い、ハンマーなどで打ち込んでではない。

・ねじ込みを容易にしたり、損傷させないために潤滑油を用いてもよい。

（４）ボルト接合

・締め付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適しているものであることを確認する。

・ボルト接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は、ボルト本数を適切に増加する。

・ボルトの締め付けは、座金が部材にめり込む程度とし、めり込み音が発生した時点で締め付けを完了する。

・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。

・一度締め付けたボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

（５）コーチスクリュー接合

・構造耐力上主要な部分において、コーチスクリューを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

・コーチスクリューの配置間隔、縁距離および端距離、使用する座金は同じ胴部径のボルトに準ずる。

・胴部の先孔の径は胴部と同径とし、長さも胴部と同寸とする。

・ネジ部の先孔の径：比重0.4以上の樹種・・・ネジ径の 60～70%

その他の樹種・・・・・・・ネジ径の 40～70%
（長さはネジ部の長さと同寸とする。）

・コーチスクリューは先孔にレンチなどで回しなが挿入し、ハンマーなどで打ち込んでではない。

木質工事特記仕様書（２）

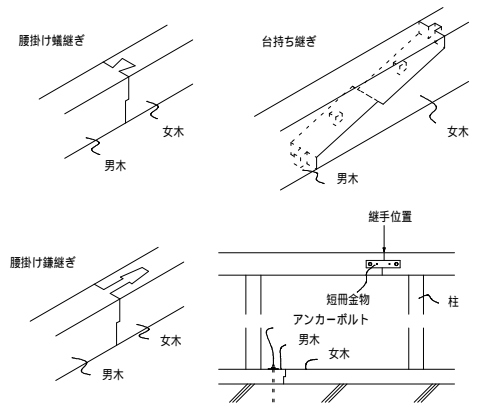
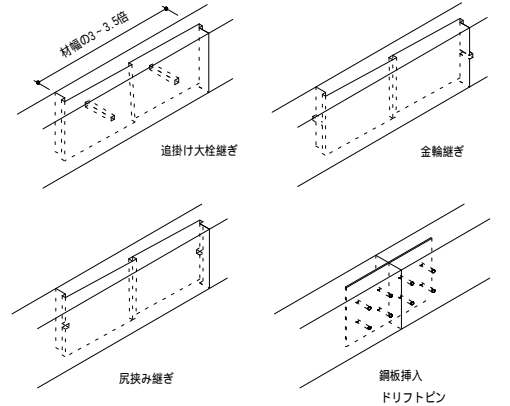
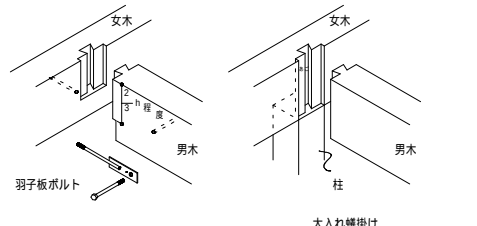
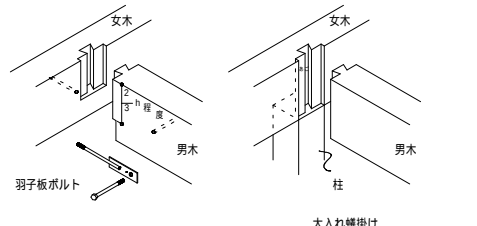
- (7) ジベル接合
- ・木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点に注意し、影込み・打ち込みまたは圧入に際して割れを生じないよう、ジベルの種類に応じた断面と余長をもたせる。
 - ・接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。
- (8) 既成金物の接合
- ・羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取り付けは、それぞれの仕様に基づき、接合両材の間に密着するように締め付ける。
- (9) 接着接合
- ・接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。
 - ・接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし、実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合はその際の作業条件を標準とする。
- (1 0) その他の方法による接合
- ・使用材料および使用方法是構造図によるものとし、監理者の承諾を得る。

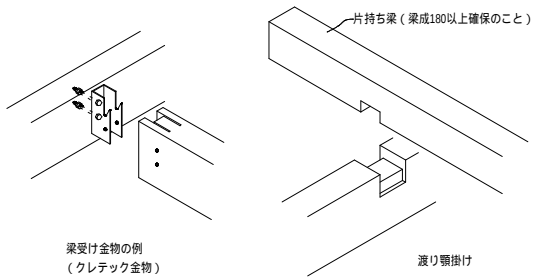
7. 運搬・建て方

- (1) 輸送計画
- 製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。
- 輸送計画書の提出 ()
- (2) 集積・保管
- 集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。 □ 集積場の確認 ()
- (3) 建方計画
- ㊟ 建方計画書の提出
- アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。
- (4) 施工時の安全性
- 建方作業中および作業後、横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承諾を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。
- ㊟ 施工時の安全性に対する検討書の提出 □ 施工時荷重条件の通知
- (5) アンカーボルトの施工
- ・芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。
 - ・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。
 - ・アンカーボルトはダブルナットとする。 □ 適用除外 ()
 - ・土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。
㊟ 通り芯からの誤差 : ㊟ ±3mm以下 □ ()
- (6) 建方精度
- ・建方の精度基準は下記による。
㊟ 建物の倒れ : ㊟ e H / 2500+10mm かつ e 50mm
□ (H/1000)
㊟ 梁の水平度 : ㊟ e L / 700+ 5mm かつ e 15mm
(節点間のレベル差) □ ()
㊟ 建物のわん曲 : ㊟ e L / 2500mm かつ e 25mm
□ ()
㊟ 柱据え付け面の高さ及び位置
柱据え付け面の基準高さからの誤差 : ㊟ ±3mm以下 □ ()
通り芯からの誤差 : ㊟ ±3mm以下 □ ()
階高 : ㊟ - 5mm H +5mm
□ ()
- 建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。

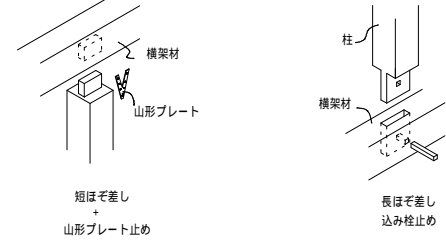
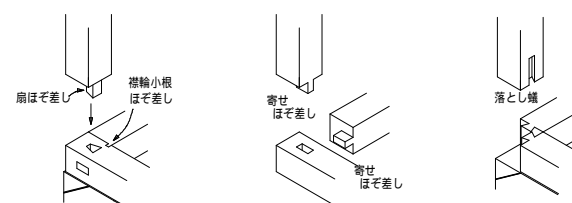
- (7) 施工状況の検査
- ・アンカーボルト施工時の立会い検査
㊟ 目視による精度確認 □ 計測機器による精度確認 ㊟ アンカーボルト径、間隔
㊟ 施工者自主検査記録の提出 ()
 - ・地組み時の立会い検査
㊟ 目視による精度確認 □ 計測機器による精度確認 ㊟ 材料の加工寸法検査
㊟ 施工者自主検査記録の提出 ()
 - ・建方時の立会い検査
㊟ 目視による精度確認 ㊟ 計測機器による精度確認 ㊟ 材料の加工寸法検査
㊟ 施工者自主検査記録の提出 ()
 - ・建方後の施工状況の検査
㊟ 防腐・防蟻処理 ㊟ 材料の加工寸法検査 ㊟ ファスナーの施工状況
㊟ 接合金物の施工状況 □ その他 ()
㊟ 施工者自主検査記録の提出 ()
 - ・最終確認
- 工事中に発生するボルトの緩み、ファスナーおよび接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。
㊟ 施工者自主検査記録の提出 ()

8. 軸組構法接合部の標準仕様

- (1) 横架材同士の継手
- １．曲げ応力や引張力を負担しない継手：腰掛け蟻継ぎ、腰掛け鎌継ぎ
 - ・せん断力が大きい場合は台持ち継ぎとする。
 - ・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
 - ・逆せん断と引張の補強として短冊金物等を併用すること。
 - ・柱からの持ち出し位置は、連続梁の長期荷重の反曲点付近とする。
- 
2. 曲げ応力や引張力を負担する継手
- ・追掛け大栓・金輪・尻挟み継ぎ、鋼板挿入ドリフトピン接合
 - ・伝達できるMやTは母材全断面の2 割以下と考えること。
- 
- (2) 柱の継手
- ・伝達できるMやTは母材全断面の2 割以下と考えること。
 - ・やむを得ず柱の継ぎ手を設ける場合は、曲げと軸力による複合応力の検定を行い安全性を確認する。
- (3) 横架材どうしの仕口
- １．せん断力が母材全断面の3 割以下の仕口：（大入れ）蟻掛け
 - ・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。
 - ・逆せん断と引張の補強として羽子板ボルト等を併用する。
 - ・男木の梁せいが女木の2 / 3 以下の場合は、仕口直下に柱がある場合には、大入れとしてもよいが、そうでない場合は男木のせいの2 / 3 程度の顎をかける。
- 
- ２．せん断力が母材全断面の3 割を超える仕口：梁受け金物
 - ・既製品の場合は金物メーカーの許容せん断耐力の値を用い、特注品の場合は構造計算で許容せん断耐力を算出して安全性を確認すること。
 - ３．一方を片持ち梁とする場合：レベル差を設け渡り腰掛け
 - ・逆せん断の補強として羽子板ボルト等を併用すること。
- 

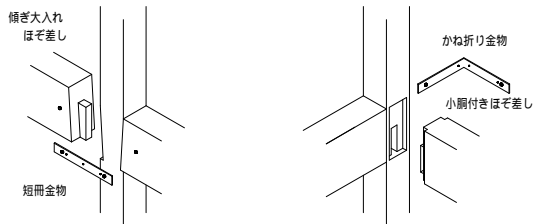


(4) 柱と横架材の仕口

- １．柱の上下端部：短ぼぞ差し、長ぼぞ差し込み栓止め
 - ・短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N 値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZ マーク金物等を併用すること。
- 
2. 土台の出隅入隅部
 - ・土台同士は榫輪小根ぼぞ差し又は寄せぼぞ差し、柱脚部は扇ぼぞ差し又は寄せぼぞ差し（但し、柱勝ちの場合、落とし蟻又は土台をて寄せぼぞ差しとする。）
 - ・短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N 値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZ マーク金物等を併用すること。落とし蟻の場合は、H D 金物を用いる。
- 

3. 通し柱と開差し：小胴付きぼぞ差し、傾ぎ大入れぼぞ差し、梁受け金物

- ・梁受け金物以外の仕口には、引張の補強として短冊金物やかね折り金物等を併用すること。



(5) 筋かい端部

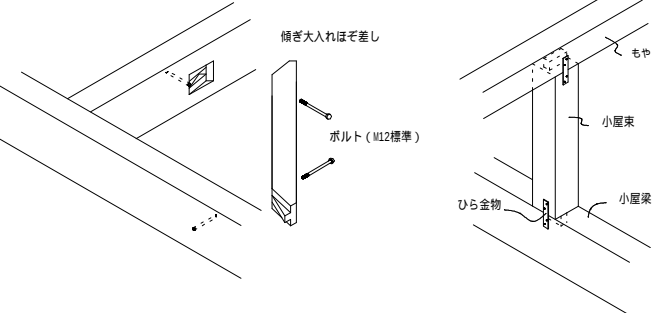
- ・平12建告1460号の例示仕様又は同等品とする。

(6) 火打ち、方杖

- ・角材を用いる場合の端部は、傾ぎ大入れぼぞ差し・ボルト締めとする。
- ・Z マーク鋼製火打ち又は同等品としてもよい。

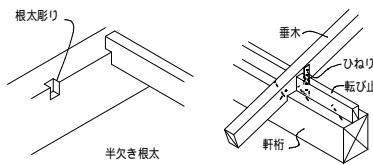
(7) 小屋束の上下端部

- ・短ぼぞ差し又は長ぼぞ差し込み栓止めとする。
- ・短ぼぞ差しの場合、風圧力による引張力の補強として、かすがい2 本又はひら金物又は山形プレート止めとする。



(8) 根太、垂木と横架材

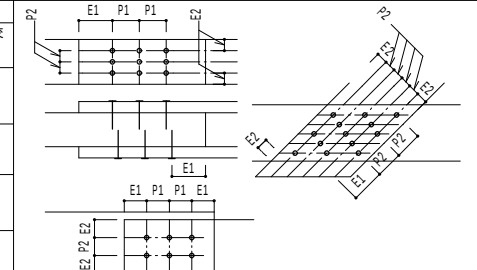
- ・落とし込み根太：横架材に大入れ or 根太掛け＋斜め釘
- ・半欠き根太：横架材に大入れ懸掛け＋斜め釘
- ・転ばし根太：根太が正角断面の場合、横架材に脳天釘止め
根太が縦長角断面の場合、斜め釘2 本＋転び止め
- ・垂木：横架材に垂木道を握り、転ばし根太と同様に止める。
・風の負圧の補強：許容応力度計算により必要耐力を有するひねり金物等を取り付ける。



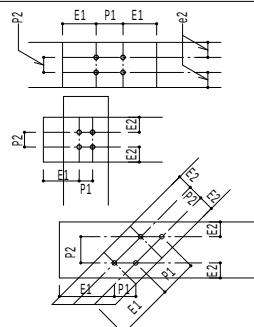
(9) 間柱と横架材

- ・上下横架材に深さ3mm程度大入れ＋斜め釘上部ぼぞ差し、下部突き付け＋斜め釘

(1 0) 釘の最小間隔及び最小端あき距離

		加力方向		
		縦 横 方 向	縦横直交 方 向	
縦 横 方 向	E1	15d	10d	
	P1	12d	10d	
縦 横 直 交 方 向	E2	5d	8d	
	P2	5d	8d	

(1 1) ボルトの最小間隔及び最小端あき距離

		加力方向		
		縦 横 方 向	縦横直交方向	
縦 横 方 向	E1	7d (荷重負担側) 4d (荷重非負担側)	7d	
	P1	7d	t/d=2 3d 2 t/d<6 3d ~ 5d t/d>6 5d	
縦 横 直 交 方 向	E2	t/d 6 1.5d t/d>6 1.5dかつP2/2	特記による。特記のない場合は以下の数値とする。 4d (荷重負担側) 1.5d (荷重非負担側)	
	P2	3d	4d	

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

木質工事特記仕様書（２）

CHECKED BY .

株式会社 白兔設計事務所

鳥取県知事 登録番号 第 0 5 - 1 4 2
管理建築士（一級建築士登録番号 2 0 2 7 9 1 ） 新田 浩明

PROJECT . NO	DATE	DRAWING BY .
2026-01	2026 . 8	一級建築士登録番号 第325874号 澤 享
DRAWING . NO	SCALE	
5 - 03	-	

木造在来軸組工法標準納まり図

1 一般事項

(1)構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
(2)施工の際は本標準図の他、「木造住宅工事共通仕様書(解説付)」((財)住宅金融普及協会)「木造軸組工法住宅 接合部の設計と金物の取付」((社)日本木造住宅産業協会)等参照のこと。
(3)床組 下記●印で選択した床組を適用する

剛な床組 柔な床組

2 金物

(1)使用する金物は、(財)日本住宅・木造技術センターの定める規格によるZマーク表示品または、これと同等以上のものを使用する。
(2)接合及び補強をするに当たっては、接合部位の納まりに適した金物を使用すること。
(3)接合金物の許容耐力一覧表
金物伏図参照

名 称	記 号	短期許容耐力 (kN)			使用接合具等
		べいまつ類	べいつが類	すぎ類	
太めくぎ	ZN 40	0.86	0.77	0.68	
	ZN 65	0.86	0.77	0.68	
	ZN 90	1.26	1.14	0.98	
スクリークぎ	ZS 50	1.48	1.34	1.17	
柱脚金物	PB-33	11.38	10.40	10.00	六角ボルト M12(1本)
	PB-42	22.76	20.80	20.00	六角ボルト M12(2本)
ひら金物	SM-12	1.72	1.54	1.36	太めくぎ ZN65(4本)
	SM-40	4.30	3.85	3.40	太めくぎ ZN65(12本)
ひねり金物	ST-9	1.72	1.54	1.36	太めくぎ ZN40(4本)
	ST-12				
	ST-15				
折曲げ金物	SF	2.58	2.31	2.04	太めくぎ ZN40(5本)
くら金物	SS	5.16	4.62	4.08	
羽子板ボルト	SB・F,SB・F2	5.69	5.20	5.00	六角ボルト M12(1本)
	SB・E,SB・E2				
かど金物	CP・L	4.30	3.85	3.38 (3.38)×1.5=5.07	太めくぎ ZN65(10本)
	CP・T				
山形プレート	VP	5.04	4.56	3.92	太めくぎ ZN90(8本)
短ざく金物	S	5.69	5.20	5.00	六角ボルト M12(2本)
かね折り金物	SA				
かすがい	C-120	1.27	1.18	1.08	
	C-150				
	CC-120				
	CC-150				
引き寄せ金物	HD-B10	11.38	10.40	10.00	六角ボルト M12(2本) 又は? ? ? ? ? -LS12(2本)
	S-HD10				
	HD-B15	17.07	15.60	15.00	六角ボルト M12(3本) 又は? ? ? ? ? -LS12(3本)
	S-HD15				
	HD-B20	22.76	20.80	20.00	六角ボルト M12(4本) 又は? ? ? ? ? -LS12(4本)
	S-HD20				
	HD-B25	28.45	26.00	25.00	六角ボルト M12(5本) 又は? ? ? ? ? -LS12(5本)
	S-HD25				
	HD-N5	7.56	6.84	5.88	太めくぎ ZN90(5本)
	HD-N10	12.60	11.40	9.80	太めくぎ ZN90(10本)
	HD-N15	20.16	18.24	15.68	太めくぎ ZN90(16本)
	HD-N20	22.68	20.52	17.64	太めくぎ ZN90(20本)
	HD-N25	29.48	26.68	22.93	太めくぎ ZN90(26本)

表値は鋼板添え板による25%割増の値を示す。長期許容せん断耐力の値は表値の1/2とする。
べいまつ類：べいまつ・くろまつ・あかまつ・からまつ・つが
べいつが類：べいひ・べいつが・ひば・ひのき・もみ
すぎ類：とどまつ・えぞまつ・べにまつ・スプルス・すぎ・べいすぎ
ラグスクリューLS12は首下長11cm以上とし、柱寸法10.5cm角以上の部材に適用される。
算出根拠は、日本建築学会発行の「木質構造設計基準・同解説」による。

(4)アンカーボルト 下記●印で選択したアンカーボルトを適用する

アンカーボルト	M12	L = ● 400 ・ 450 ・ 500
	M16	L = ● 600 ・ 700 ・ 800 ・ 900 ・ 1000

注：この図面は、一例を示したものであり、各現場の状況に合わせて変更して使用すること。

3 各部構造の施工上の留意点

1 基礎と土台の緊結

(1)アンカーボルトの配置

(a)筋違いを設けた耐力壁の部分は両端柱の外側下部に近い位置を原則とする

ホールダウン金物をアンカーボルト(A・70)で緊結する場合
ホールダウン金物取付位置は(→)加力方向を想定。

ホールダウン金物を座金付きボルト(M16W)で土台と緊結する場合

山形プレートで土台と緊結する場合、または金物の無い場合

(b)構造用合板を張った耐力壁の場合は(c)に準ずる

(c)隅角部、土台継手及び土台仕口箇所の端部

(d)上記(a),(b)及び(c)以外の部分においては間隔2m以内になるような位置とする

(2)アンカーボルトの施工

(a)アンカーボルトの芯出しは、型板を用いて基準墨に正確に合わせる。
(b)アンカーボルトのコンクリート基礎への埋め込み長さ

アンカーボルト	長さ(mm)	埋め込み長さ(mm)
M-16、A-60 A-70	L=600,700	360mm以上
M-12 A-40	L=450	250mm以上

なお、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るようにすること。

(c)アンカーボルトは、所定の位置に垂直に敷設されるよう位置出し材を布基礎型枠材に釘打ちし、アンカーボルトを固定してからコンクリートを打設すること。
(d)アンカーボルトは、衝撃などにより曲がりが生じないよう、慎重に取り扱う。
また、ねじ部分には、損傷・錆の発生・汚れ等を防止するために布、ビニールテープなどを巻いて養生を行う。

(3)アンカーボルトの定着のチェック方法
埋込位置のマークを確認する。(埋込マークの中心ポイント)

中心のポイント
埋込位置
角座金 W 9.0×80 丸座金 RW 9.0×90
アンカ - ボルト用
A60,A70

2 柱と基礎(土台)との緊結

(a)柱は、構造計算による引き抜き応力に耐えられるように接合金物(ホールダウン金物)により基礎または土台と緊結する。ホールダウン金物は、柱の下部に締め代を30mm程度とり六角ボルト(M12)、ラグスクリュー(LS12)または太めくぎ(ZN90)にて柱に固定する。

(b)緊結方法は次による

ホールダウン用アンカーボルトを用いて直接基礎に緊結する場合

座金付きボルト(M16W)を用いて土台と柱を緊結する場合

アンカーボルト(A40またはA60)を用いて土台と柱を緊結する場合

座金付きボルト(M16W)を用いて土台と柱を緊結する場合

3 筋違いの仕口

(a)筋違いの仕口は筋違いプレート(BP,BP-2)によって緊結する

(b)筋交いプレート(BP-2)

筋交いプレート BP-2
長さ 1.820の場合の筋かい
長さ 910場合の筋かい

筋かいの勾配によって筋かい金物の有効釘本数が異なっていることに注意されたい。

筋かいプレート BP-2
柱へ 5-ZS50
土台・桁へ 5-ZS50
筋かいへ 7-ZS50
(45×90)1-M20(角根平頭ボルト)

4 通し柱

(a)通し柱は、次のいずれかによる
1階から3階に達する通し柱とする。
1階から2階までの通し柱と、2階から3階までの通し柱を組み合わせる場合、当該通し柱と管柱とは接合金物で緊結する。

(b)通し柱に代わる管柱の補強
外周部の主要な隅柱及び構造計算による引抜き応力大きい2階の柱は、1階の管柱と接合金物(ホールダウン金物)で緊結する。ホールダウン金物の取付けは、次による。

上階の柱及び下階の柱にホールダウン金物を用い、柱の下部及び上部に締め代を取り六角ボルト(M12)、ラグスクリュー(LS12)等で各々取付け。
ホールダウン金物は相互に六角ボルト(M12またはM16)を用い緊結する。

柱(上階) 柱(下階)
ホールダウン金物
六角ボルト M-12またはM-16
締め代30mm
隅差、床梁

(c)上記(b)以外の構造計算による引抜き応力が小さい2階柱の接合金物は、短ざく金物(S)、ひら金物(SM-40)等のZマーク表示品、または、これらと同等以上のものとする。

厚和寮ホーム(仮称)新築工事

木造在来軸組工法標準納まり図(1)

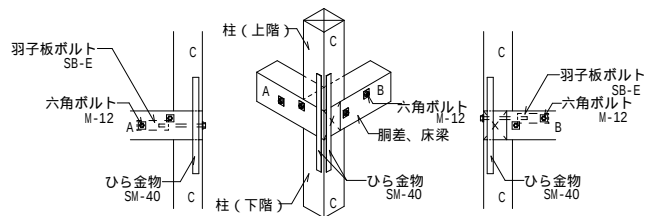
CHECKED BY.

株式会社 白兔設計事務所

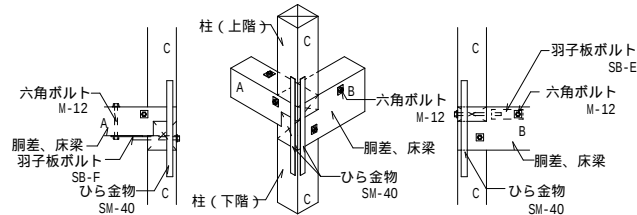
鳥取県知事 登録番号 第05-142
管理建築士(一般建築士登録番号 202791) 新田 浩明

PROJECT.NO	DATE	DRAWING BY.
2026-01	2026.8	一般建築士登録番号
DRAWING.NO	SCALE	第325874号
5-04	-	澤 享

(a) 出隅



大入れかぶとあり 短ほぞ差し 扇ほぞ差し



(b) 入り隅
入り隅は出隅の場合に準ずる。ただし、準ずることが困難な場合には通し柱とする。

Technical diagrams for three types of door hinge installation:

- 短ぼさ差し (Short Offset):** Shows a hinge being attached to a door edge. The door is labeled 'B'.
- 大入れあり掛け (Large Insertion):** Shows a hinge being attached to a door edge. The door is labeled 'A'.
- offset (Offset):** Shows a hinge being attached to a door edge. The door is labeled 'A'.

Labels for the diagrams include:

- 羽子板ボルト SB-E (Featherboard Bolt SB-E)
- 六角ボルト M-12 (Hex Bolt M-12)
- 間仕切桁 (Partition Beam)
- 胴差 (Door Stop)
- ひら金物 SM-40 (Door Stop SM-40)

Technical diagrams illustrating the connection of a wing plate (羽子板) to a bed beam (床梁) and a window frame (窓差).

Left Diagram (Short Offset): Shows a wing plate (B) connected to a bed beam (A) with a short offset (短ぼさ差し).

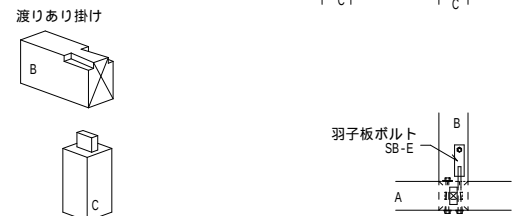
Right Diagram (Large Insert Hook): Shows a wing plate (B) connected to a bed beam (A) with a large insert hook (大入れあり掛け).

Labels and Components:

- 羽子板ボルト SB-E (Wing plate bolt SB-E)
- 六角ボルト M-12 (Hex bolt M-12)
- 床梁 (Bed beam)
- 窓差 (Window frame offset)
- ひら金物 SM-40 (Window frame hardware SM-40)
- 六角ボルト M-12 または ラクスクリュー (LS12) (Hex bolt M-12 or Lock screw (LS12))
- ひら金物と干渉する場合は、座掘する (If it interferes with the window frame hardware, dig a seat).
- 羽子板ボルト SB-E 開き止めのため確実に取付ける (Wing plate bolt SB-E must be securely attached for opening stop).

Technical drawing of a roof structure showing components and their assembly. The drawing includes a perspective view of a roof section and a detailed cross-section of the roof assembly. The components are labeled as follows:

- 羽子板ボルト S8-E (Rib Bolt S8-E)
- 六角ボルト M-12 (Hex Bolt M-12)
- 床梁 (Bed Beam)
- かど金物 (CP-L) (片面) (Corner Fitting (CP-L) (Single Side))
- ひら金物 SM-65 (Flat Fitting SM-65)
- 胴差 (Dome Fitting)



かど金物 CP-L (片面)

床梁

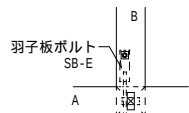
六角ボルト

羽子板ボルト SB-E

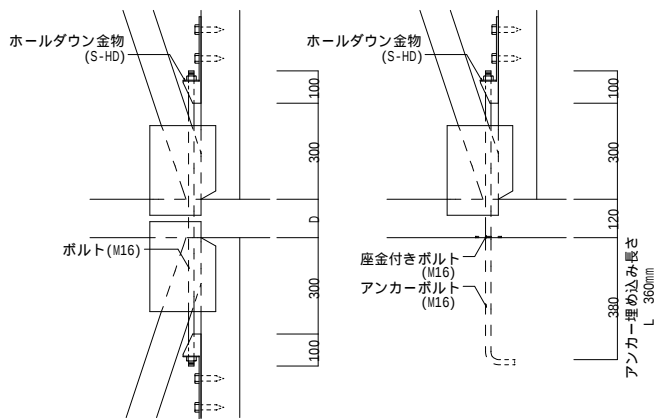
銅差

ひら金物 SM-40
または、帯金物 S-65

本工法は、



土台との納まり



筋違いが上下の一方にある時	筋違いが上下にある時
D+430	D+800

座金付きボルト	アンカーボルト
520	900

Technical drawing of a mechanical part with dimensions: 120, 45, 75, 30, 45, 12, 5, and a section line.

Technical drawing of a beam-to-column joint. The drawing shows a cross-section of a beam (width 120) and a column (width 120). The beam has a top flange thickness of 4.5 and a web thickness of 12. The column has a top flange thickness of 5.5 and a web thickness of 12. The joint is shown with a bolted connection. Dimensions are given in millimeters. A note indicates that the bolt hole and the hole for the bolt should be replaced with the hole for the bolt. A detail view shows the bolt hole and the hole for the bolt, with dimensions 11.7, 20, and 12.5. A note indicates that the hole for the bolt should be 5mm larger than the hole for the bolt.

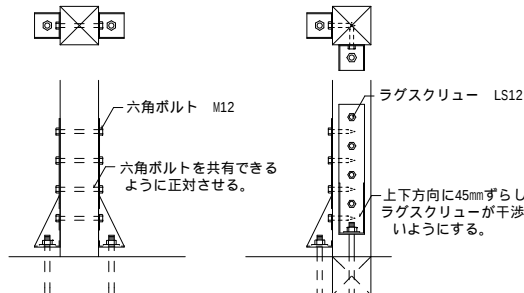
ホールドダウン金物を柱芯より
5mm程度ずらす。

筋違いプレートのボルト穴と
隣の釘穴を入れ替える。

筋違い厚さは45mmまでとする。

This diagram shows a cross-section of the connection between the reinforcement plate and the main body. The reinforcement plate has a thickness of 17mm. The main body has a total width of 120mm and a central hole with a diameter of 50mm. The distance from the center of the hole to the edge of the main body is 50mm. The reinforcement plate is secured by bolts and washers. A note indicates that the bolts and washers should not interfere with the HD.

直行に納める。



ホールダウン	ホールダウンのとおりつく壁の種類		
	大壁	折衷壁	両面真壁
HD-N	○	×	×
HD-B	○	×	×
S-HD	○	○	○

記号

○：使用できる。

×：納まらないため、使用できない。

面材の受材・筋違い等が干渉する場合はS-HDを使用する。

筋力: 190×90 の場合



調査名		厚和寮ホーム設計に係る地質調査業務													
調査地住所		鳥取県鳥取市湖山町西地内													
試験深度		3.5m		測点番号		1				調査者		山本 昌哉			
年 月 日		2026年2月18日										標 高		KBM -0.26m	
水 位		無し										試験装置		オートマチックGR	
貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転 数 Na (回)	1m当り 半回転 数 Nsw (回)	記 事			推 定 柱状図	推定水位 (m)	荷重 Wsw (kN)	貫入量1m当たり 半回転数 Nsw	換算 N値 (回)	換算 qa (kN/㎡)		
					音・感触	貫入状況	土質名								
0.25	25	0.25	自沈	0			砂質土					0.5	7.5		
0.50	25	1.00	18	72		打撃貫入	砂質土					6.8	76.1		
0.75	25	1.00	16	64			砂質土					6.3	71.0		
1.00	25	1.00	21	84			砂質土					7.6	83.8		
1.25	25	1.00	27	108			砂質土					9.2	99.1		
1.50	25	1.00	30	120			砂質土					10.0	106.8		
1.75	25	1.00	43	172			砂質土					13.5	120.0		
2.00	25	1.00	39	156			砂質土					12.5	120.0		
2.25	25	1.00	43	172			砂質土					13.5	120.0		
2.50	25	1.00	41	164			砂質土					13.0	120.0		
2.75	25	1.00	53	212			砂質土					16.2	120.0		
3.00	25	1.00	56	224			砂質土					17.0	120.0		
3.25	25	1.00	81	324			砂質土					20.0	120.0		
3.50	25	1.00	105	420			砂質土					20.0	120.0		



調査名		厚和寮ホーム設計に係る地質調査業務											
調査地住所		鳥取県鳥取市湖山町西地内											
試験深度		4m		測点番号		3				調 査 者		山本 昌哉	
年 月 日		2026年2月18日								標 高		KBM -0.16m	
水 位		無し								試験装置		オートマチックGR	
貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na (回)	1m当り 半回転 数 Nsw (回)	記 事			推 定 柱 状 図	推定 水位 (m)	荷重 Wsw (kN)	貫入量1m当たり 半回転数 Nsw	換算 N値 (回)	換算 qa (kN/㎡)
					音・感触	貫入状況	土質名						
										25 50 75	50 100 150 200 250		
0.25	25	1.00	16	64			砂質土					6.3	71.0
0.50	25	1.00	14	56			砂質土					5.8	65.8
0.75	25	1.00	14	56			砂質土					5.8	65.8
1.00	25	1.00	8	32			砂質土					4.1	50.5
1.25	25	1.00	24	96			砂質土					8.4	91.4
1.50	25	1.00	58	232			砂質土					17.5	120.0
1.75	25	1.00	43	172			砂質土					13.5	120.0
2.00	25	1.00	52	208			砂質土					15.9	120.0
2.25	25	1.00	47	188			砂質土					14.6	120.0
2.50	25	1.00	39	156			砂質土					12.5	120.0
2.75	25	1.00	53	212			砂質土					16.2	120.0
3.00	25	1.00	57	228			砂質土					17.3	120.0
3.25	25	1.00	54	216			砂質土					16.5	120.0
3.50	25	1.00	57	228			砂質土					17.3	120.0
3.75	25	1.00	67	268			砂質土					20.0	120.0
4.00	25	1.00	120	480			砂質土					20.0	120.0



調査名														厚和寮ホーム設計に係る地質調査業務													
調査地住所				鳥取県鳥取市湖山町西地内																							
試験深度				3.25m		測点番号		5						調査者		山本 昌哉											
年 月 日				2026年2月18日										標 高		KBM -0.07m											
水 位				無し										試験装置		オートマチック GR											
貫入深さD (m)		貫入量L (cm)		荷重Wsw (kN)		半回転数Na (回)		1m当り半回転数Nsw (回)		記事		推定柱状図		推定水位(m)		荷重Wsw (kN)		貫入量1m当たり半回転数Nsw		換算N値 (回)		換算qa (kN/㎡)					
										音・感触		貫入状況		土質名													

調査名		厚和寮ホーム設計に係る地質調査業務													
調査地住所		鳥取県鳥取市湖山町西地内													
試験深度		4m		測点番号		2				調査者		山本 昌哉			
年 月 日		2026年2月18日										標 高		KBM -0.1m	
水 位		無し										試験装置		オートマチックGR	
貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na (回)	1m当り 半回 転数 Nsw (回)	記 事			推 定 柱状図	推定 水位 (m)	荷重 Wsw (kN)	貫入量1m当たり 半回転数 Nsw	換算 N値 (回)	換算 qa (kN/㎡)		
					音・感触	貫入状況	土質名								
0.25	25	1.00	6	24			砂質土					3.6	45.4		
0.50	25	1.00	21	84			砂質土					7.6	83.8		
0.75	25	1.00	63	252			砂質土					18.9	120.0		
1.00	25	1.00	77	308			砂質土					20.0	120.0		
1.25	25	1.00	42	168			砂質土					13.3	120.0		
1.50	25	1.00	65	260			砂質土					19.4	120.0		
1.75	25	1.00	60	240			砂質土					18.1	120.0		
2.00	25	1.00	45	180			砂質土					14.1	120.0		
2.25	25	1.00	45	180			砂質土					14.1	120.0		
2.50	25	1.00	44	176			砂質土					13.8	120.0		
2.75	25	1.00	43	172			砂質土					13.5	120.0		
3.00	25	1.00	35	140			砂質土					11.4	119.6		
3.25	25	1.00	50	200			砂質土					15.4	120.0		
3.50	25	1.00	74	296			砂質土					20.0	120.0		
3.75	25	1.00	57	228			砂質土					17.3	120.0		
4.00	25	1.00	113	452			砂質土					20.0	120.0		

調査名		厚和寮ホーム設計に係る地質調査業務											
調査地住所		鳥取県鳥取市湖山町西地内											
試験深度		3.5m		測点番号		4				調 査 者		山本 昌哉	
年 月 日		2026年2月18日								標 高		KBM -0.25m	
水 位		無し								試験装置		オートマチックGR	
貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回 転数 Na (回)	1m当り 半回転 数 Nsw (回)	記 事			推 定 柱状図	推定水位 (m)	荷 重 Wsw (kN)	貫入量1m当たり 半回転数 Nsw	換算 N値 (回)	換算 qa (kN/㎡)
					音・感触	貫入状況	土質名						
0.25	25	1.00	9	36			砂質土					4.4	53.0
0.50	25	1.00	18	72			砂質土					6.8	76.1
0.75	25	1.00	19	76			砂質土					7.1	78.6
1.00	25	1.00	18	72			砂質土					6.8	76.1
1.25	25	1.00	9	36			砂質土					4.4	53.0
1.50	25	1.00	7	28			砂質土					3.9	47.9
1.75	25	1.00	8	32			砂質土					4.1	50.5
2.00	25	1.00	2	8			砂質土					2.5	35.1
2.25	25	1.00	11	44			砂質土					4.9	58.2
2.50	25	1.00	39	156			砂質土					12.5	120.0
2.75	25	1.00	67	268			砂質土					20.0	120.0
3.00	25	1.00	82	328			砂質土					20.0	120.0
3.25	25	1.00	92	368			砂質土					20.0	120.0
3.50	25	1.00	132	528			砂質土					20.0	120.0

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

地質調査図

CHECKED BY.

株式会社

白兔設計事務所

鳥取県知事 登録番号 第05-142号
管理建築士（一級建築士登録番号 202791） 齋田 浩明

PROJECT.NO

DATE

DRAWING BY.

2026-01

2026.8

一級建築士登録番号

DRAWING.NO

SCALE

第325874号

S-07

A2:1/50

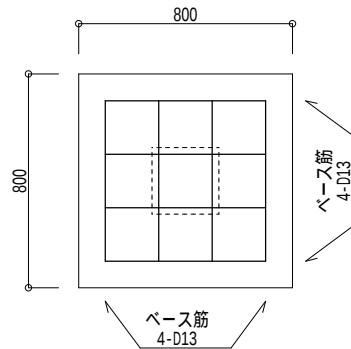
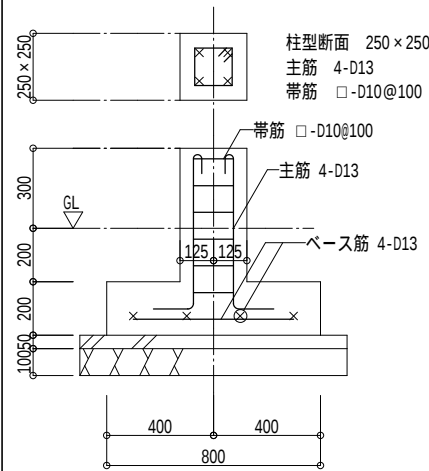
澤 享

A3:70.7%縮小

基礎梁断面リスト S=1/20

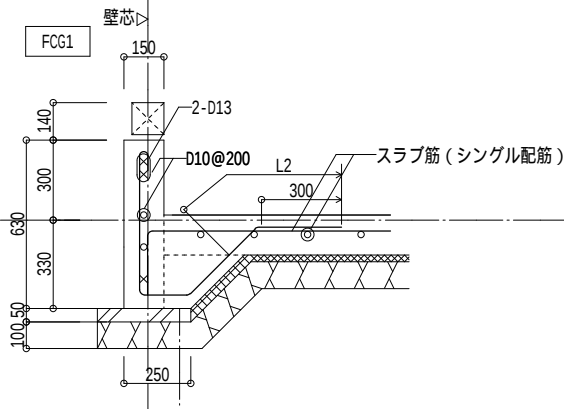
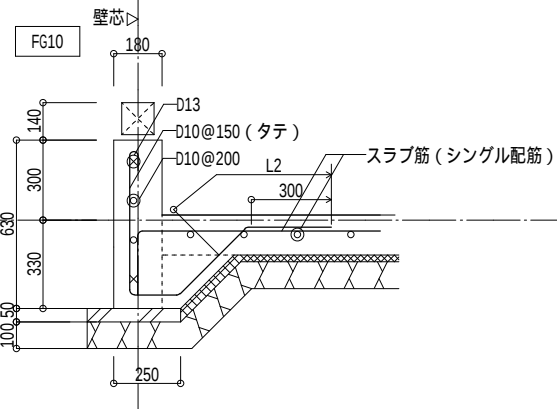
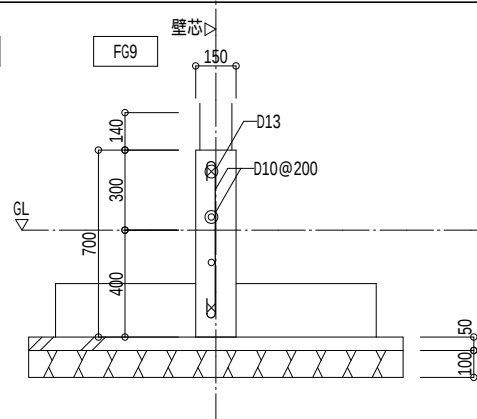
・特記なき下記による
○ 印は、2段筋を示す。
設計かぶり厚さは、上端40mm、下端70mm、側面50mmとする。
-----2段筋受け筋 D10@1000を示す。

符号名	FG1	FG2	FG3			FG4	FG5		
位置	全断面	全断面	X8・X11端側	中央	X9・X10端側	全断面	X8・X11端側	中央	X9・X10端側
断面 FL ▽ △ GL 100 20 80									
	B×D	250×350	250×350	400×350	400×350	400×350	450×350	450×350	450×350
	上端筋	2-D13	2-D13	8-D16	8-D16	4-D16	5-D16	10-D16	7-D16
	下端筋	2-D13	4-D13	4-D16	4-D16	4-D16	7-D16	5-D16	5-D16
	あばら筋	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150
符号名	FG6	FG7			FG8		FG1A		
位置	全断面	Y3端	中央	Y5端	端部	中央	全断面		
断面 FL ▽ △ GL 100 20 80									
	B×D	450×350	450×350	450×350	400×350	400×350	230×300		
	上端筋	5-D16	5-D16	7-D16	5-D16	4-D16	3-D13		
	下端筋	7-D16	7-D16	5-D16	5-D16	4-D16	3-D13		
	あばら筋	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@150		

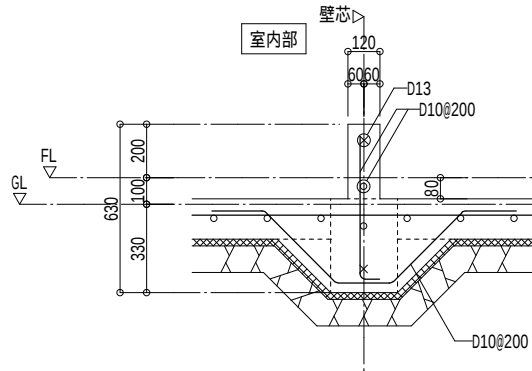
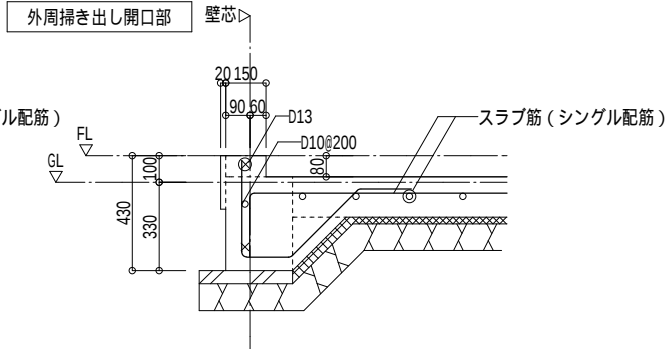
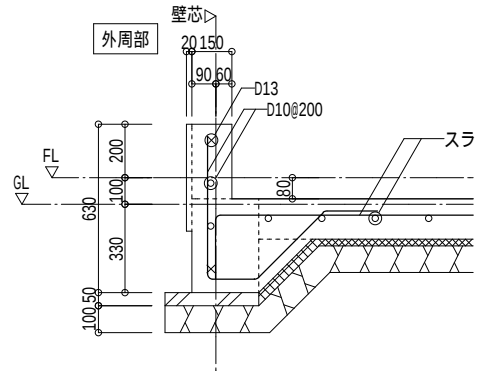


独立基礎 F1 詳細図 S=1/20

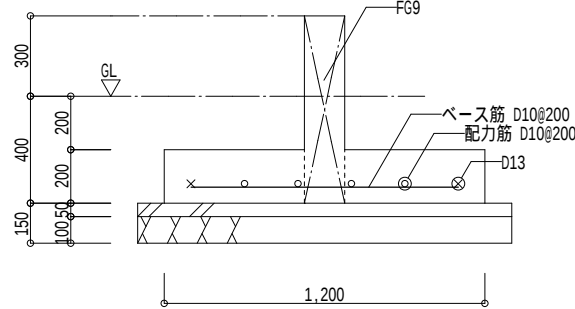
基礎梁断面リスト S=1/20



立上り詳細図 S=1/20



布基礎 f11 詳細図 S=1/20



厚和寮ホーム（仮称）新築工事

基礎梁断面リスト

CHECKED BY.

株式会社 白兔設計事務所

鳥取県知事 登録番号 第05-142号
管理建築士（一級建築士登録番号 202791） 藪田 浩明

PROJECT.NO	DATE	DRAWING BY.
2026-01	2026.8	一級建築士登録番号 第325874号 澤 享
DRAWING.NO	SCALE	
S-08	A2:1/20 A3:70.7%縮小	



耐圧版・スラブ 断面リスト

符 号	版 厚	位 置	主筋 (短辺) 方向		主筋 (短辺) 方向		備 考
			端 部	中 央	端 部	中 央	
FS1	150	上端 不端	D13・@150 (S)		D13・@150 (S)		耐圧版 モチアミ配筋
DS1	120	上端 不端	D10、D13・@200 (S)		D10、D13・@200 (S)		土間コンクリート モチアミ配筋
DS2	150	上端 不端	D10、D13・@150 (S)		D10、D13・@150 (S)		土間コンクリート モチアミ配筋

共通事項 (特記なき下記による。)

特記なき基礎梁はFG1とする。

特記なきスラブ天端=FL-80とする、(FL-000)はFLからのスラブ天端高さを示す。

梁天=FL-80とする。その他の梁は<FL-000>内寸法による。

は立上り壁位置を示し、天端高さはFL+200とする。
(FG1Aは基礎天端高さFL-200とする)

は、土間下立上り (立上り天=FL±0) を示す。

× は、上部柱位置を示す。

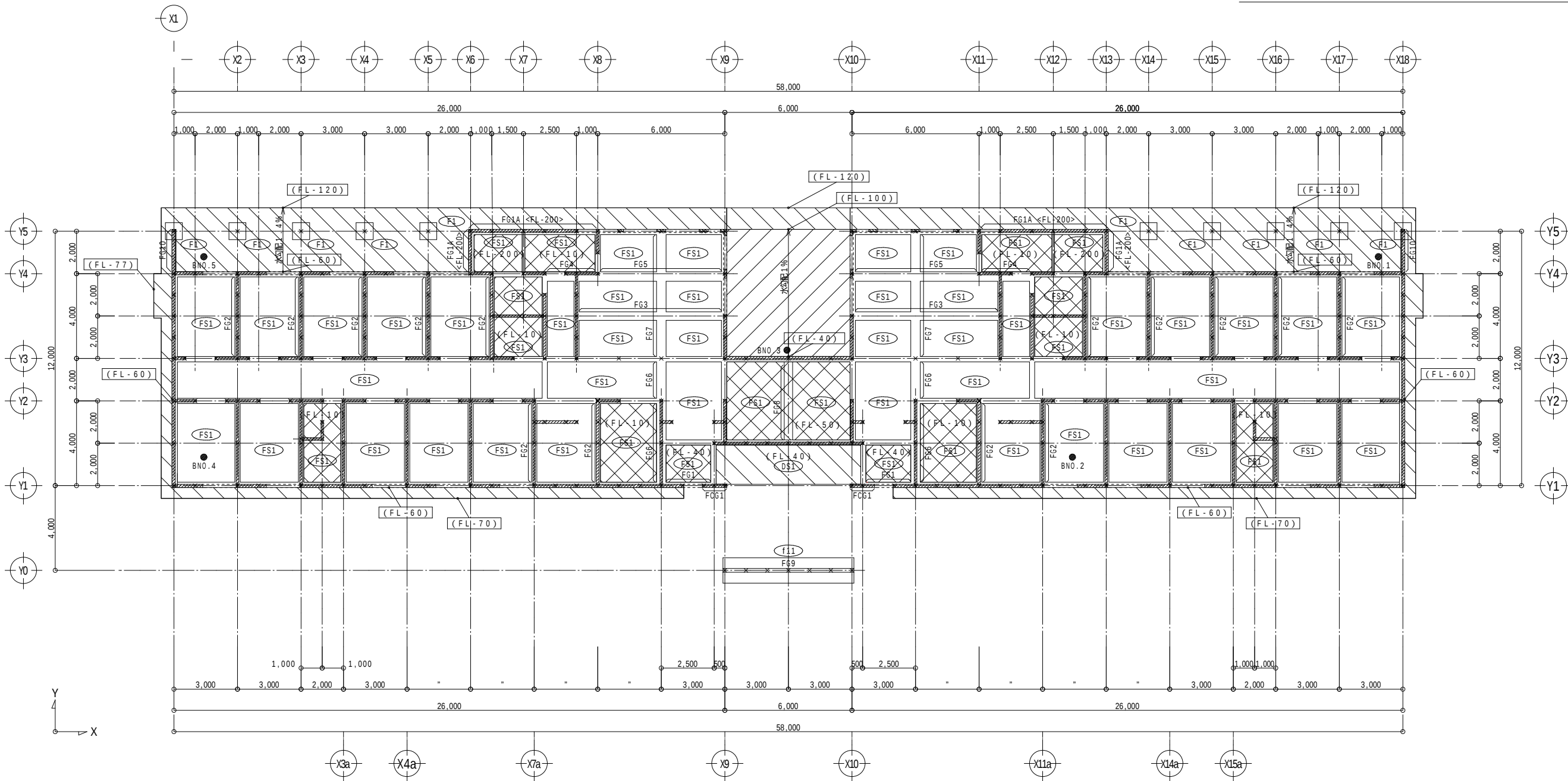
立上り壁厚さは、外壁周り t=150、内壁 t=120とする。

は内部土間コンクリート段差部分を示す。

は DS1、は DS2を示す。

印は、土間水勾配方向を示す。

● 印は、土質調査位置を示す。



基礎・1階伏図 1/150

厚和寮ホーム (仮称) 新築工事

基礎・1階伏図

CHECKED BY.

株式会社 白兔設計事務所

鳥取県知事 登録番号 第05-142号
管理建築士 (一級建築士登録番号 202791) 藪田 浩明

PROJECT.NO

2026-01

DRAWING.NO

S-09

DATE

2026.8

SCALE

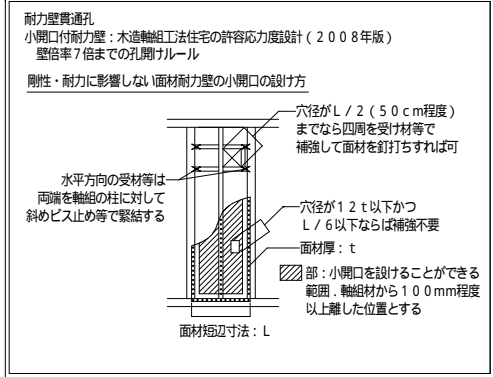
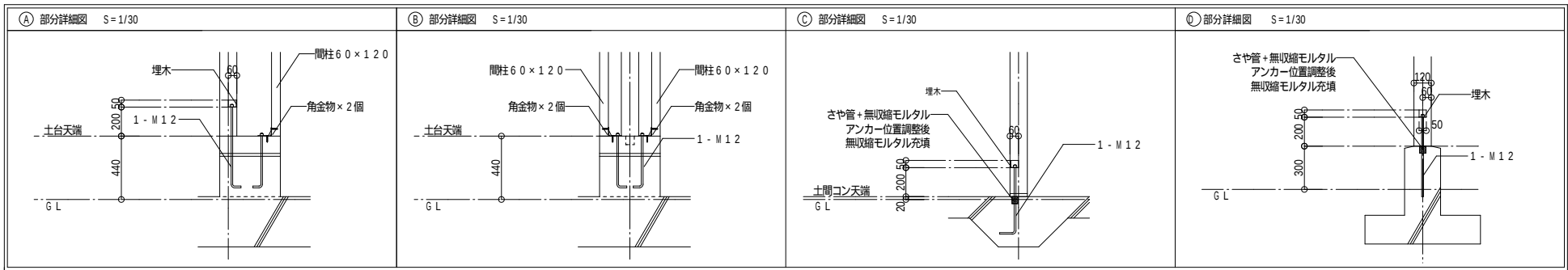
A2: 1/150
A3: 70.7%縮小

DRAWING BY.

一級建築士登録番号

第325874号

澤 享



共通事項（特記なき下記による。）

木材は全て、JAS規格品（KD20）とする。

印は、土台120×120"桧"（防腐防蟻注入材）を示す。

柱の樹種は、"杉"とする。

印は、柱を示し、特記なき限りサイズは120×120とする。

W2.5は、面材張り大壁・片面（壁倍率2.5）を示す。

筋交い記号は下記による。

45×90 たすき掛け筋交い（倍率4.0）を示す。

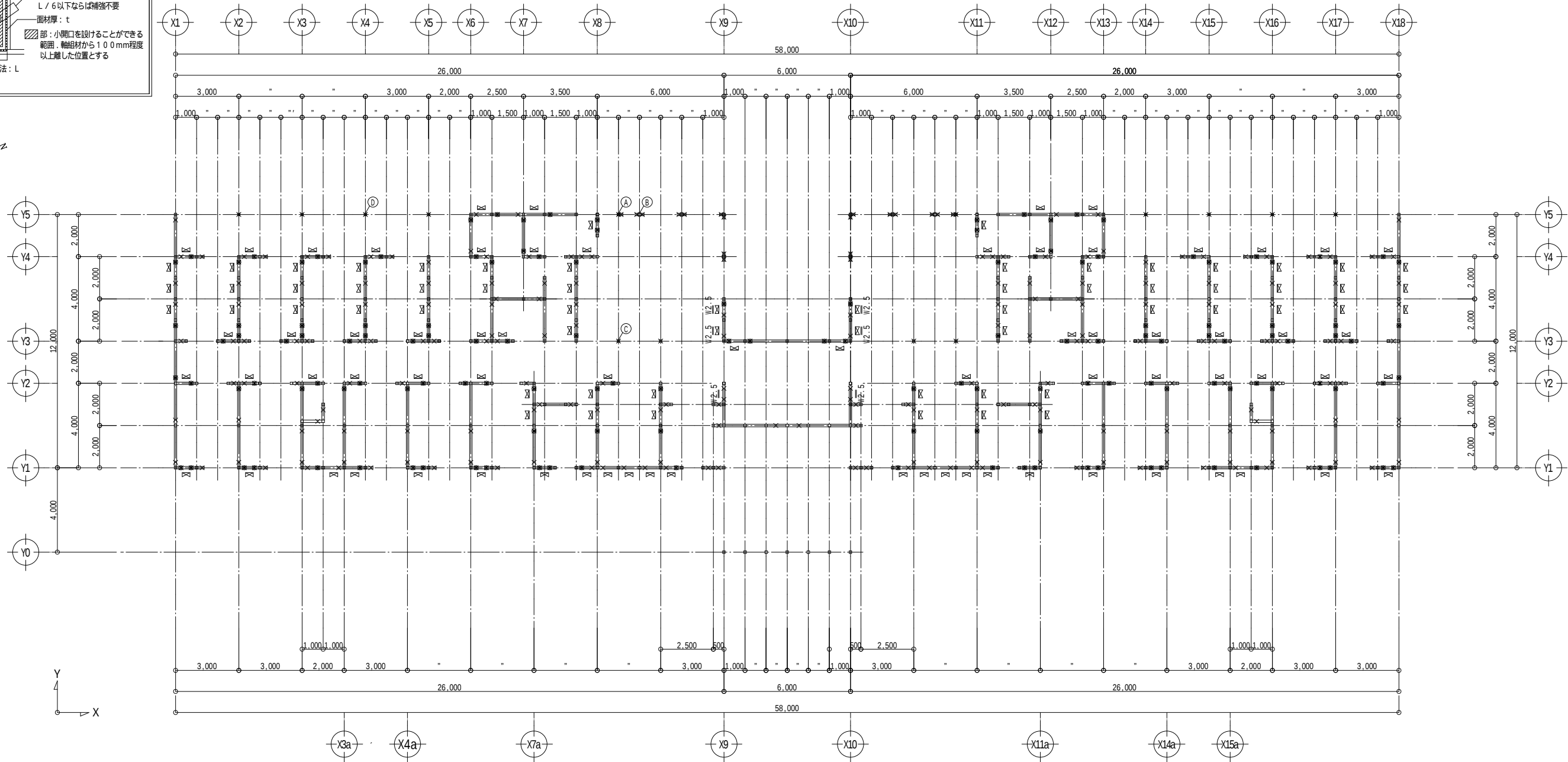
× 印は、アンカーボルトM12の位置を示す。

印は、アンカーボルトM16（ホールダウン）の位置を示す。

印は、アンカーボルトM12（柱壁込み）の位置を示す。

アンカーボルトは図示以外に、@1,800以下および土台継手の男木側に設けること。

土台継手の位置等により、アンカーボルトの位置を変更する場合は、監督員と協議の上、決定のこと。



土台・アンカーボルト・筋交い伏図 1/150

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

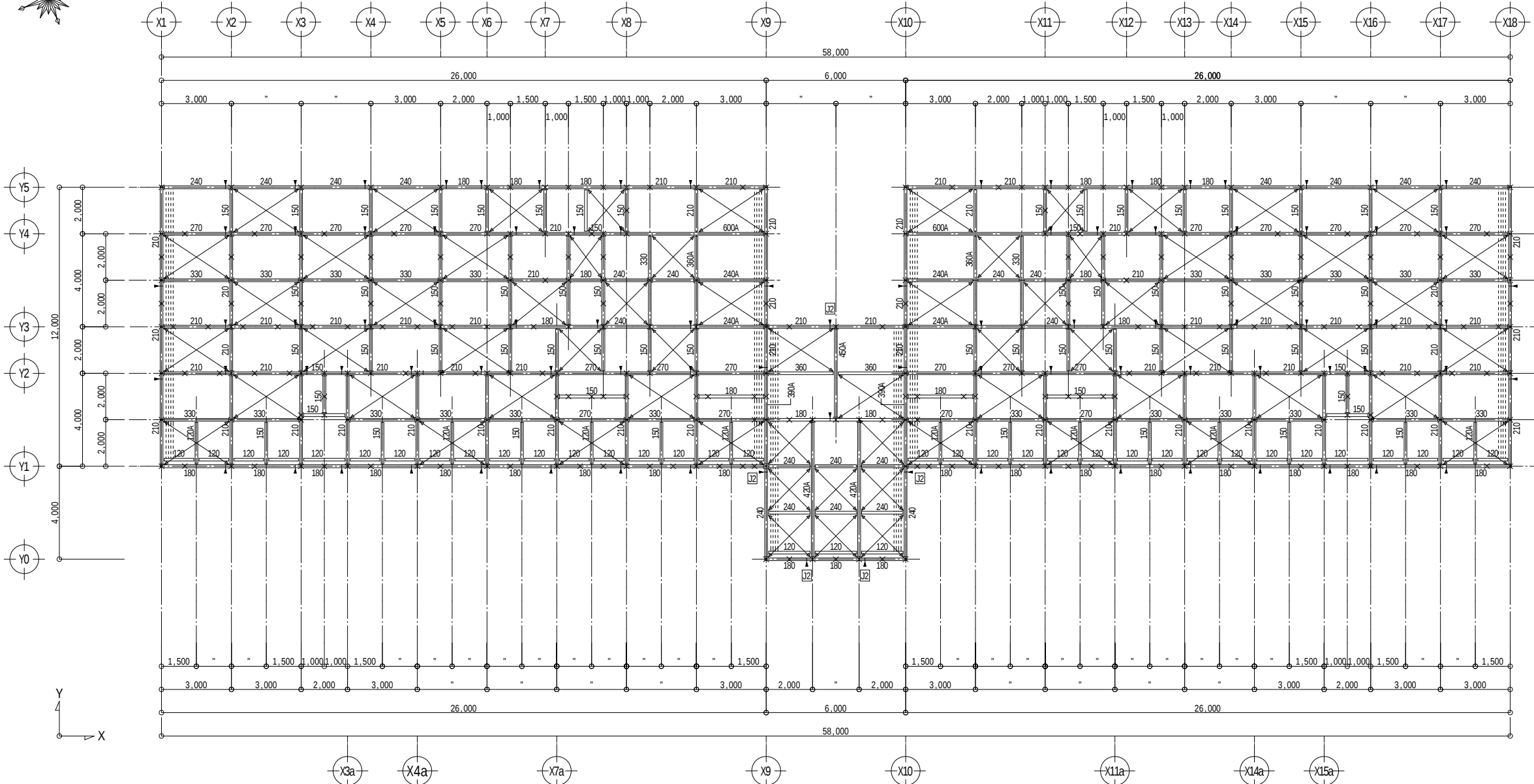
土台・アンカーボルト・筋交い伏図

CHECKED BY.

株式会社 白兔設計事務所

鳥取県知事 登録番号 第05-142号
管理建築士（一級建築士登録番号 202791） 藪田 浩明

PROJECT.NO	DATE	DRAWING BY.
2026-01	2026.8	一級建築士登録番号 第325874号 澤 享
DRAWING.NO	SCALE	
S-10	A2:1/150 A3:70.7%縮小	



小屋伏図 1/150

共通事項 (特記なき下記による。)

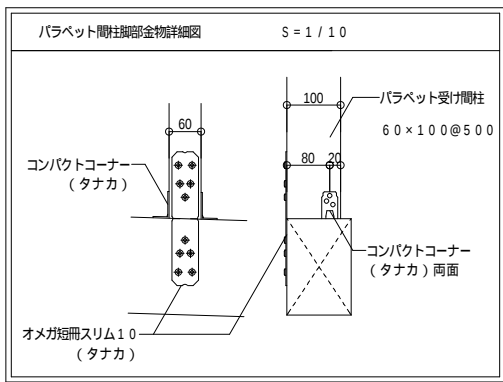
1. 木材は全て、JAS規格品 (KD20) とする。
2. 特記なき梁の梁幅は120とし、梁せいは特記 (伏図記載の数値) による。
3. 特記なき梁の樹種は以下とする。 樹種について監理者の承認を得ること。

樹種は杉とする。
- 符号末尾記号 (A) : 欧州赤松集成材 (E105・F300・異等級構成)
4. 部材断面性能又は樹種について、性能が低下しない場合の変更は可能。
5. は、下階柱位置を示す。
6. は、梁継手位置を示す。
7. は、オメガメタルブレース (勾配用) を示す。
8. は、折板ケラ/受材105×105杉を示す。

横架材仕口部・継手部 接合部リスト

1. 特記なき梁接合部は [1] とする。
2. 短期許容耐力以上の仕様とする場合は、接合部仕様を変更してよい。
3. 使用区分は、梁伏図参照

記 号	部 材	短期許容耐力
横架材 相互 仕口部 継手部	[1] 腰掛けあり+羽子板ボルト 腰掛け蟻 (鎌) 継+短冊金物	10.0kN
	[2] 腰掛けあり+羽子板ボルト×2 腰掛け蟻 (鎌) 継+短冊金物×2	15.0kN



厚和寮ホーム (仮称) 新築工事

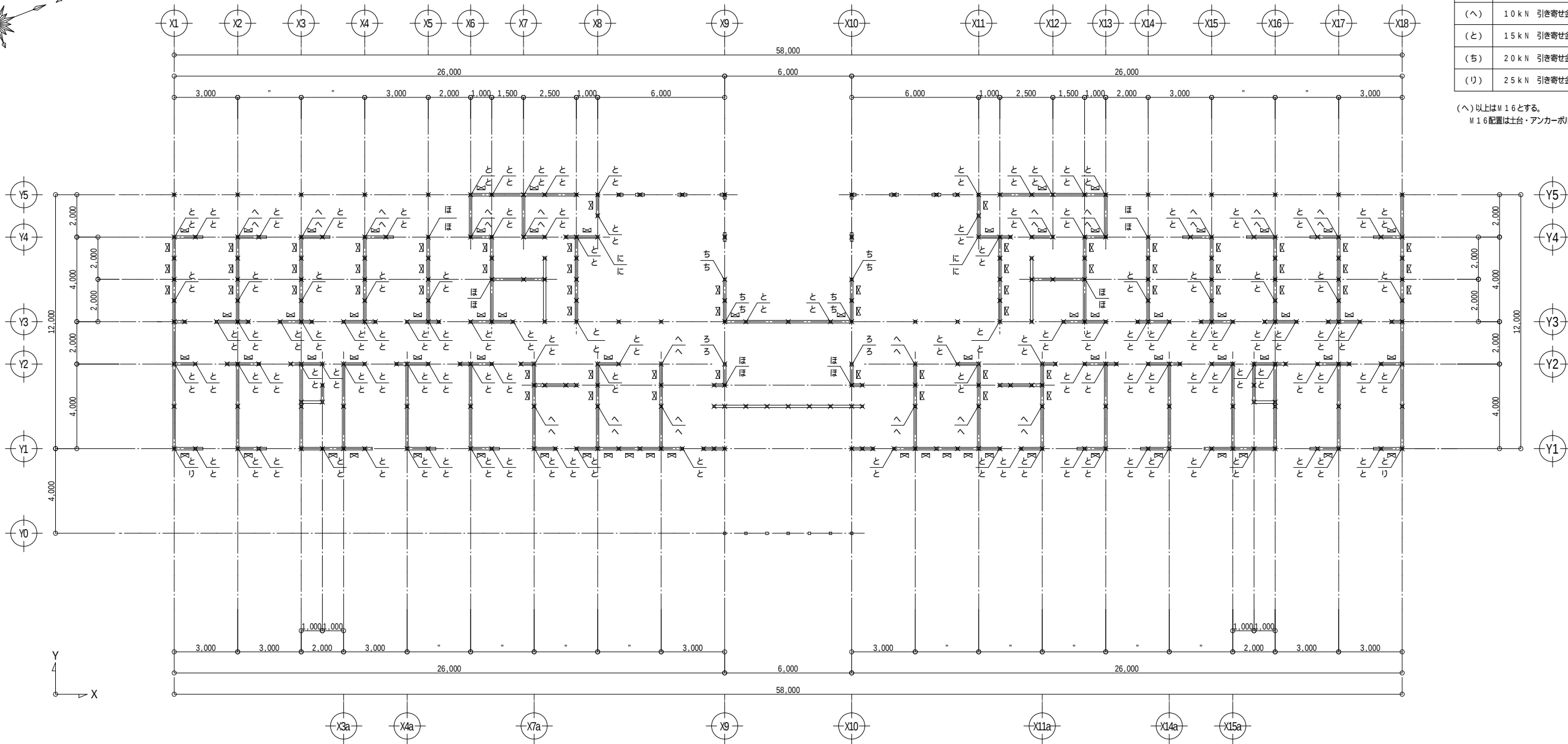
小 屋 伏 図

CHECKED BY.

株 式 白 兎 設 計 事 務 所

鳥取県知事 登録番号 第05-142号
管理建築士 (一級建築士登録番号 202791) 藪田 浩明

PROJECT.NO	DATE	DRAWING BY.
2026-01	2026.8	一級建築士登録番号 第325874号 澤 享
DRAWING.NO	SCALE	
S - 11	A2 : 1/150 A3 : 70.7%縮小	



柱頭金物	無表記は、かど金物同等とする。 また、納まり上金物仕様を変更する場合は 短期許容耐力の大きい金物へ変更すること。
柱脚金物	

凡例

記 号	断 面	短期許容耐力
(い)	かすがい釘	1.08 kN
(ろ)	CP-L	3.38 kN
(は)	山形プレート	5.88 kN
(に)	羽子板ボルト	7.50 kN
(ほ)	スクリー-釘併用羽子板ボルト	8.50 kN
(へ)	10kN 引き寄せ金物	10.00 kN
(と)	15kN 引き寄せ金物	15.00 kN
(ち)	20kN 引き寄せ金物	20.00 kN
(り)	25kN 引き寄せ金物	25.00 kN

(へ) 以上はM16とする。
M16配置は土台・アンカーボルト・筋交い伏図参照とする。

柱頭柱脚金物伏図 1/150

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

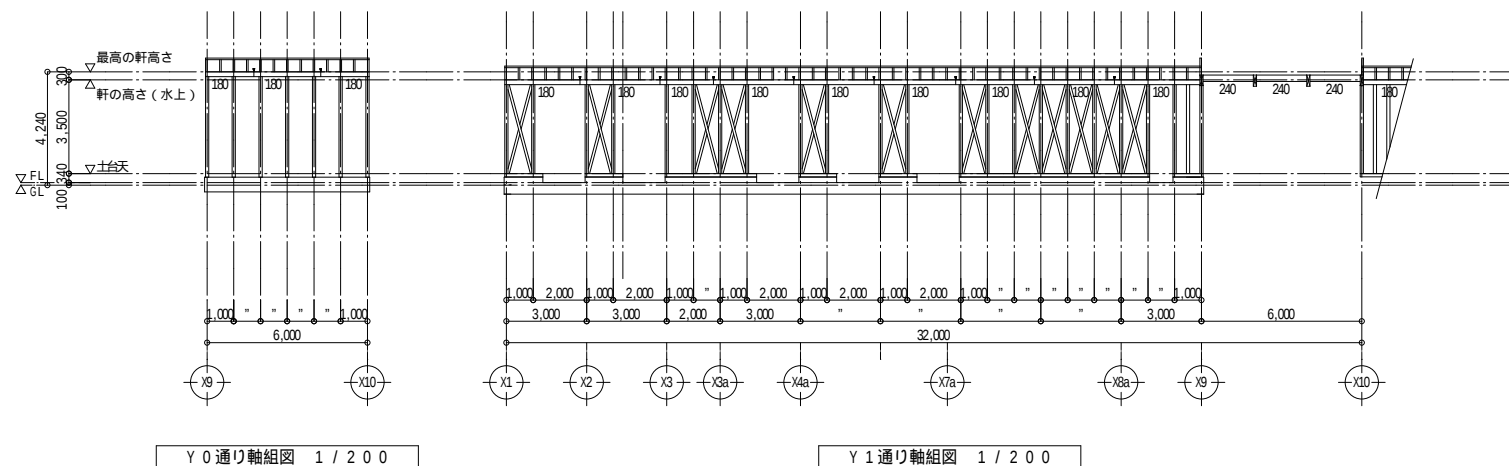
柱頭柱脚金物伏図

CHECKED BY.

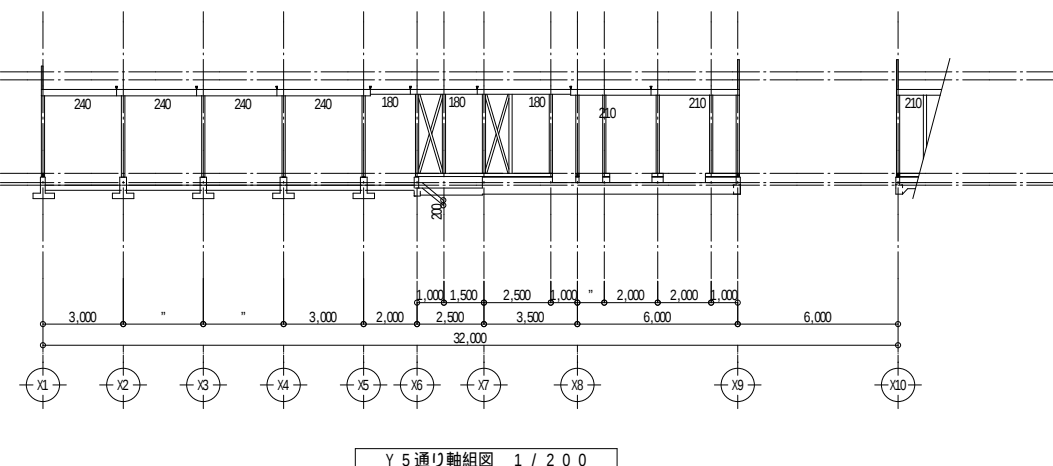
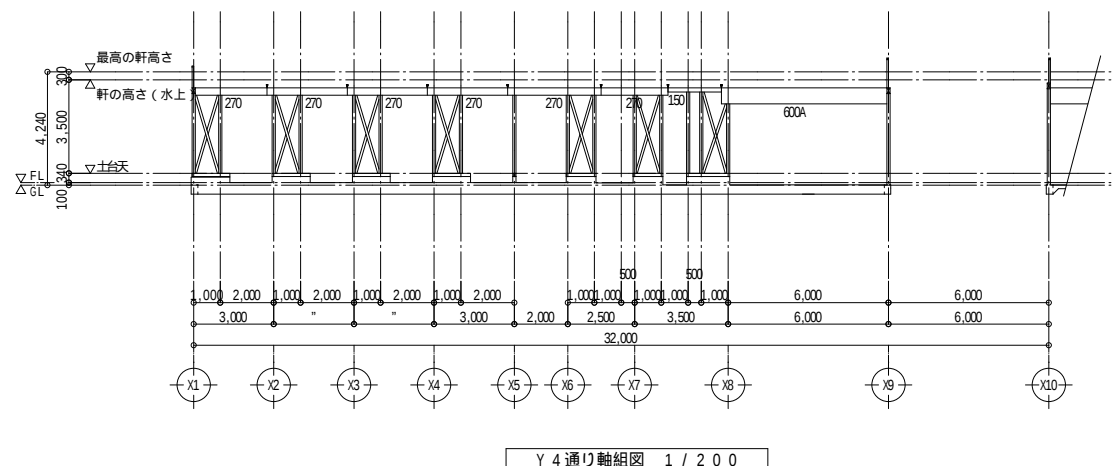
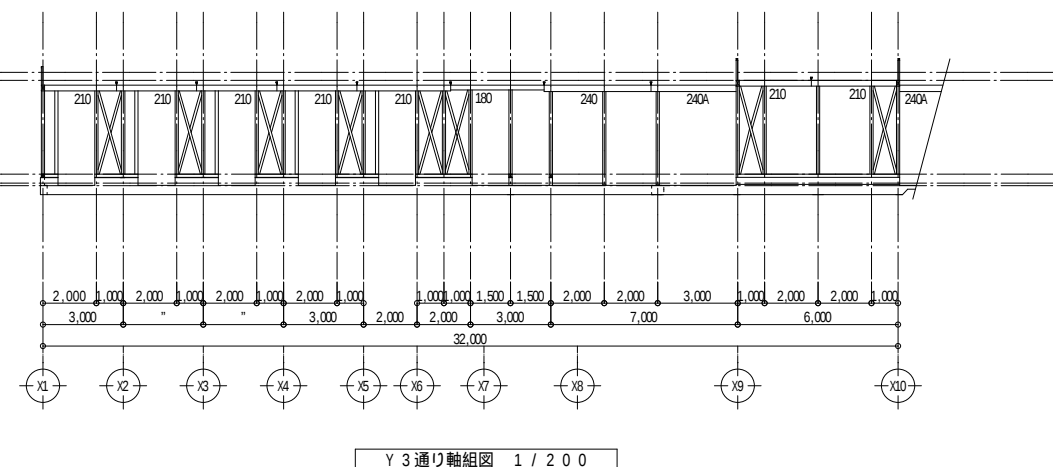
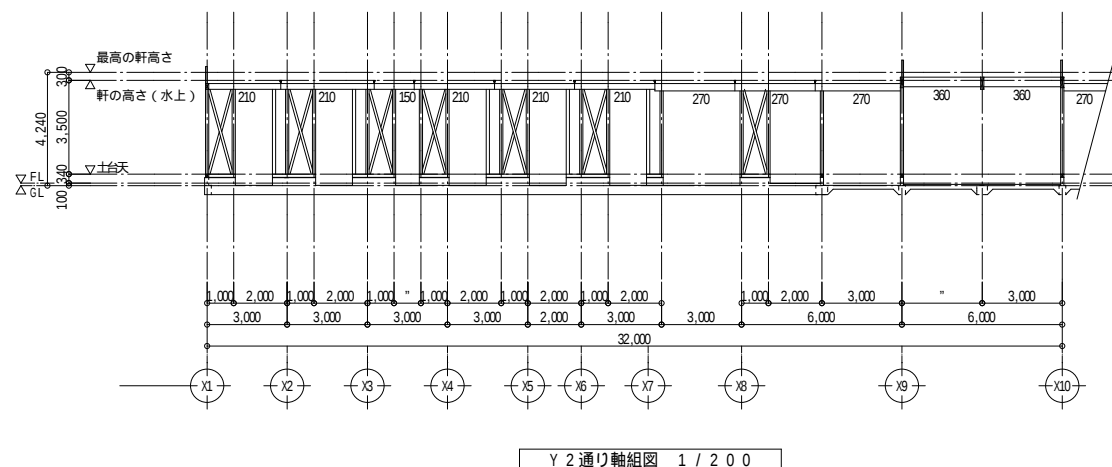
株式会社 白兔設計事務所

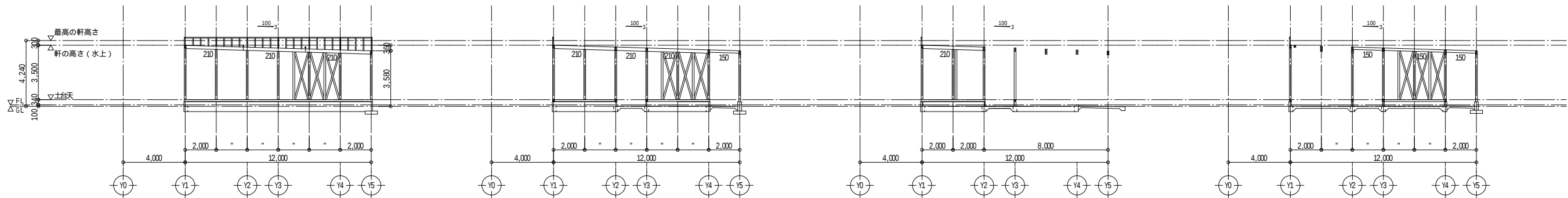
鳥取県知事 登録番号 第05-142号
管理建築士（一級建築士登録番号 202791） 藪田 浩明

PROJECT.NO	DATE	DRAWING BY.
2026-01	2026.8	一級建築士登録番号 第325874号 澤 享
DRAWING.NO	SCALE	
S-12	A2:1/150 A3:70.7%縮小	



- 共通事項(特記なき下記による。)
1. 壁下地は下記とする
・一般間柱: 30×120@500
・開口際間柱: 60×120
・まぐさ: 30×120
 2. 梁は、梁継手位置を示す。



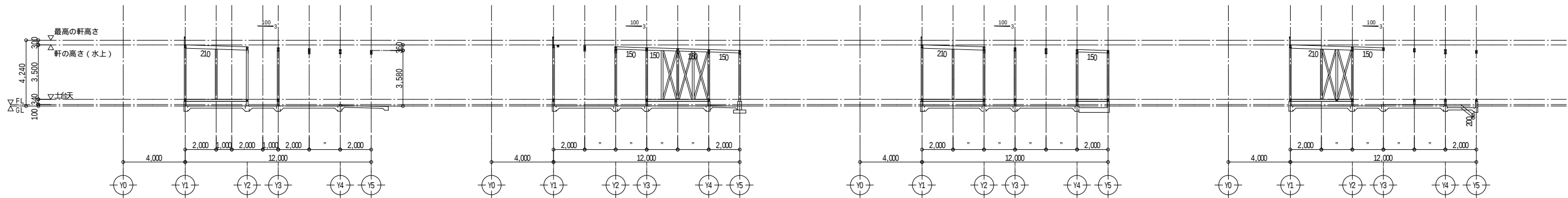


X 1 通り軸組図 1 / 2 0 0

X 2 通り軸組図 1 / 2 0 0

X 3 a 通り軸組図 1 / 2 0 0

X 4 通り軸組図 1 / 2 0 0

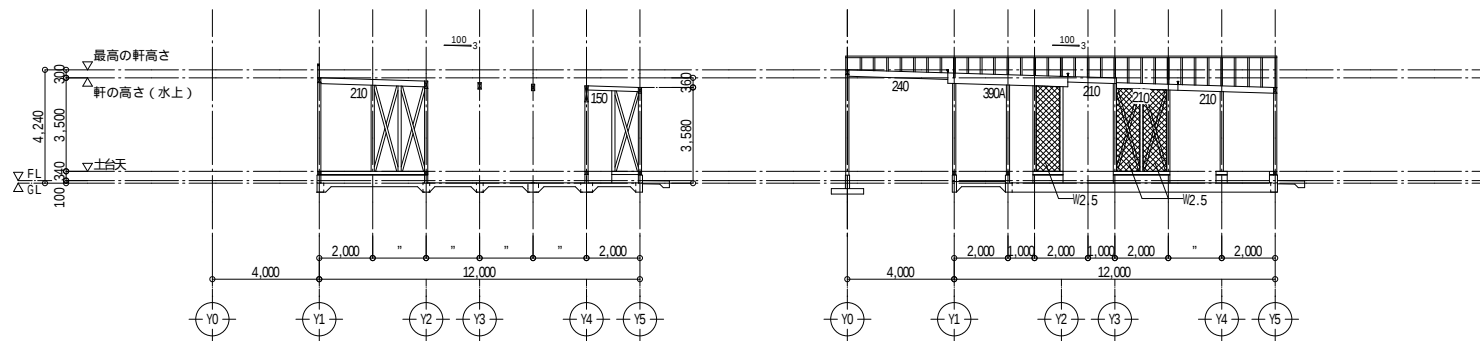


X 4 a 通り軸組図 1 / 2 0 0

X 5 通り軸組図 1 / 2 0 0

X 6 通り軸組図 1 / 2 0 0

X 7 a 通り軸組図 1 / 2 0 0



X 8 通り軸組図 1 / 2 0 0

X 9 通り軸組図 1 / 2 0 0

厚和寮ホーム（仮称）新築工事

軸組図 2

CHECKED BY.

株式会社 白兔設計事務所

鳥取県知事 登録番号 第05-142号
管理建築士（一級建築士登録番号 202791） 藪田 浩明

PROJECT.NO	DATE	DRAWING BY.
2026-01	2026.8	一級建築士登録番号 第325874号 澤 享
DRAWING.NO	SCALE	
S - 14	A2 : 1/200 A3 : 70.7%縮小	